

6. 既存データの活用による現況把握の実施

6-1 LRTの新規導入や延伸

LRTの新規導入や延伸を検討する場合、必要に応じて以下の分析を行うことが考えられる。

- (1)公共交通サービスレベルの現状把握
- (2)鉄道駅別の端末交通手段構成比

(1) 公共交通サービスレベルの現状把握

①分析の視点

現状の公共交通サービスレベルを把握することで、公共交通のサービスが不足している地域を把握する。人口が多いにも関わらず、公共交通サービスが行き届いていない地域は、LRT導入による潜在需要が期待される。また、バス路線が集中している幹線公共交通軸、幹線バス路線で道路交通渋滞により表定速度が低下している区間については、潜在的な需要が存在する路線としてLRT導入の候補路線と考えられる。

②方法

現況の鉄道や路線バスなどの公共交通サービスレベルを把握する。地図上に図示したサービスレベルと人口分布を比較することで、公共交通のサービスレベルが不足している地域を明らかにする。また、バス路線の運行本数や表定速度からLRT導入の潜在需要路線を明らかにする。

例えば、最低限のサービスレベルとして、平日の毎日において1日に数本（朝通院、午前買物、午後通院、午後買物、夕方帰宅など）の運行が必要といわれている。台数の制約等から1日2, 3便しか運行できない場合も出てくるが、地域別に曜日をかえて1日5, 6便確保する方策も考えられることから、住民にとってどちらが望ましいか、住民との話し合いの中で検討していく必要もあろう。²

③分析に必要なデータ

- ・ 鉄道や路線バスの路線網図
- ・ 駅間や路線バス停間の運行本数
- ・ 人口データ（国勢調査等）

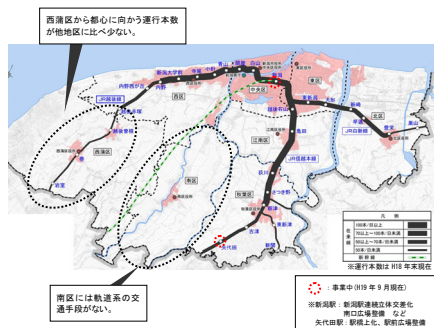


図 6-1 鉄道の区間別運行本数(イメージ図)

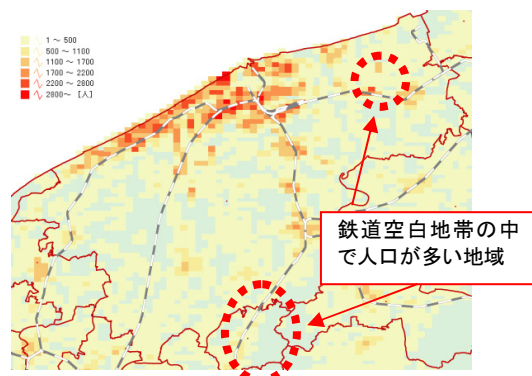


図 6-2 夜間人口の変化(イメージ図)

²土木学会、バスサービスハンドブック、p323、2006年11月

(2) 鉄道駅別端末交通手段構成比

①分析の視点

鉄軌道駅別の端末手段構成比を把握し、鉄軌道駅へ自動車や路線バスでアクセス・イグレスが多い鉄軌道駅を把握する。鉄軌道の延伸を検討する場合、鉄軌道駅まで自動車や路線バスで多く訪れている地域へ延伸することで、自動車や路線バスからの転換交通量が想定される。

②方法

鉄道を利用しているトリップに対して、鉄道駅に到着する直前の手段と鉄道駅を降りた直後の手段を交通手段別に集計することで、鉄道駅別・乗降別端末手段構成比を算出する。

③分析に必要なデータ

- ・ 都市圏 P T 調査
- ・ 特定目的 P T 調査（特定地域限定型）

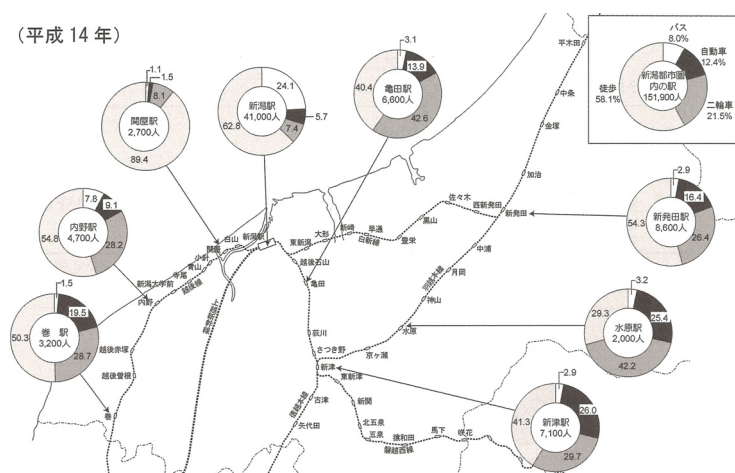


図 6-3 鉄道駅別端末交通手段構成比(イメージ図)